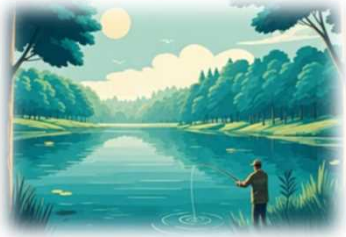
砂川遊水地の水質（すいしつ）

砂川遊水地ってどんな場所なの？

砂川遊水地は、大雨が降ったときに川の水があふれないように、いったん水をためる場所です。これによって、石狩川で洪水（こうずい）が起きないようにしています。ふだんは「砂川オアシスパーク」という公園になっていて、たくさんの人が水遊びを楽しんでいます。湖（みずうみ）では、カヌーやヨットなどの水上スポーツを楽しむ人や、釣（つ）りをする人もたくさん来ます。



遊水地では水の調査（ちょうさ）をしています

砂川遊水地は、みんなが楽しく水遊びをしたり、たくさんの魚たちが安心して住める素敵（すてき）な場所です。だから、水がきれいかどうかを調べることが大切です。この調べることを「水質調査（すいしつちょうさ）」と言います。水が汚れていると、魚や水草（みずくさ）が元気に育たなくなったり、水遊びもできなくなります。水遊びをする人たちが安心（あんしん）して遊べるよう、生き物たちが元気に暮らせるよう遊水地の水を調（しら）べています。

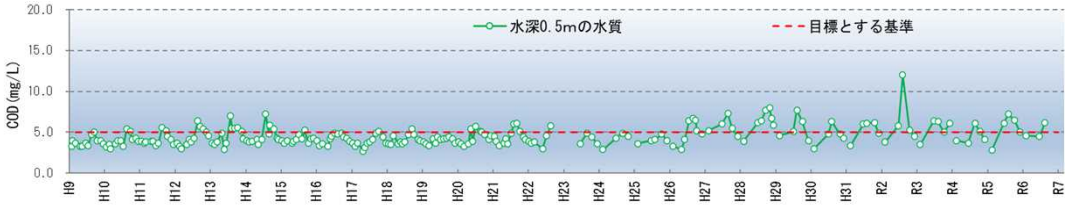
水の何をしらべているの？

遊水地で行っている水の調査（ちょうさ）では、水がきれいかどうかを調（しら）べるために、いろいろなことをしています。調査（ちょうさ）の一部を紹介（しょうかい）します。

① 水の汚れをしらべる（ＣＯＤ　シーオーディー　）

COD（シーオーディー）は、水がどれくらい汚れているかを表す数字です。数字が大きいほど水が汚れていて、数字が小さいほど水がきれいです。水が汚れると、魚やほかの生き物が生きるために必要な「さんそ」が少なくなります。「さんそ」が足りないと、生き物が元気に暮らせなくなってしまいます。COD（シーオーディー）は、水の中の汚れをきれいにするために、どれくらいの「さんそ」が必要かを教えてくれます。たとえば、砂川遊水地では、COD（シーオーディー）の数字が5.0（mg/L）より小さいと、コイやフナが住みやすいきれいな水だとされています。

砂川遊水地のCOD（平成9年～）



② 水のにごりをしらべる（ＳＳ　エスエス）

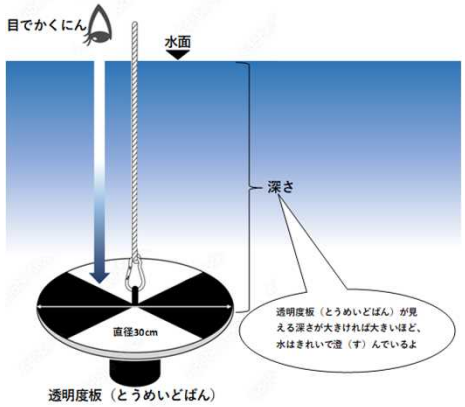
SS（エスエス）は、水の中にどれくらいゴミや泥が浮かんでいるかを調（しら）べるものです。たとえば、雨が降った後に川や池がにごるのは、泥やゴミが浮かんでいるからです。SS（エスエス）の数字が大きいと、水がにごっていることがわかり、数字が小さいと水がきれいだとわかります。砂川遊水地では、SS（エスエス）の数字が25（mg/L）より小さいかどうか、水の状態を調（しら）べています。

砂川遊水地のSS（平成9年～）

③ 水の透明度(とうめいど）をはかる

遊水地では、「透明度板（とうめいどばん）」という白い板を使って、水がどれくらいきれいかを調（しら）べています。やり方は、この板を水の中にゆっくりおろして、どれくらいの深さまで見えるかを調（しら）べます。

板が見える深さが大きいほど、水が透（す）きとおっていて、きれいだということです。水がきれいだと、水の中の生き物たちも元気に暮（く）らせます。

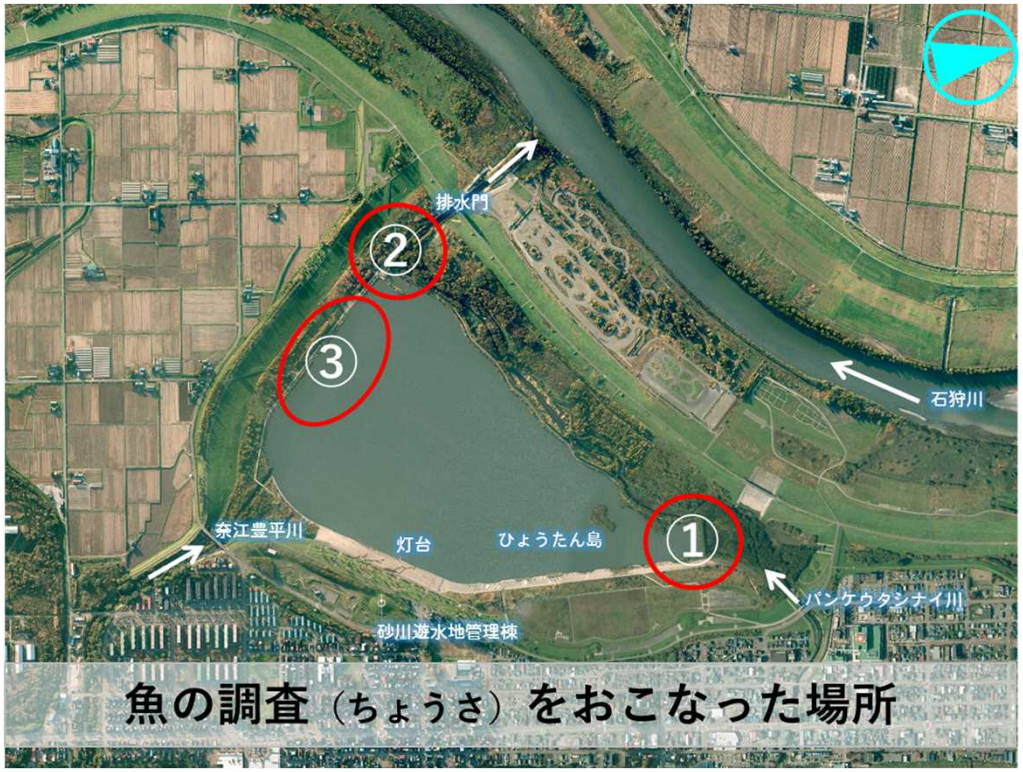


砂川遊水地に住んでいる魚たち

砂川遊水地には、いろいろな魚が住んでいます。冬になると、ワカサギ釣（つ）りを楽しむ人がたくさん来ますが、ほかの季節にも、おおくの人たちが釣（つ）りを楽しんでいます。

遊水地で魚の調査（ちょうさ）をしました

令和（れいわ）6年の秋（10月）に、遊水地にどれくらいの魚が住んでいるかを調（しら）べました。広い遊水地の中でも、特に魚が好んで住んでいると思われる**赤い線**で囲（かこ）まれた「**3つの場所**」で調（しら）べました。



調査（ちょうさ）で見つかった魚の種類（しゅるい）

今回の調査（ちょうさ）では、**15種類**（しゅるい）**823尾**の魚が見つかりました。特にワカサギ、ウグイ、コイ、フナといった魚のほか、エビやカニといった生き物が、たくさん住んでいることがわかりました。

次に砂川遊水地で確認（かくにん）された生き物のうち、代表的な魚たちについて紹介（しょうかい）します。

遊水地で見られた魚たち

■ワカサギ

キュウリウオ目　キュウリウオ科

学名　*Hypomesus nipponensis*

この魚は小さくて、冷たい水が大好きです。0度から30度くらいまでの水で生きられますが、特に冷たい水を好みます。遊水地では冬になると、この魚を釣（つ）る「ワカサギ釣（つ）り」を楽しむ人がたくさん集まります。

505尾
確認

■ウグイ（ウグイ属含む）

コイ目　コイ科

学名　*Pseudaspius hakonensis*

日本全国の川や湖で見られる魚です。川の上のほうや川の下のほうまで、いろいろな場所に住んでいて、群れを作って泳ぎます。川にいる虫や水の中の苔（こけ）、小さな魚、さらには落ちた葉っぱと何でも食べます。春になると、川の浅い場所で卵（たまご）を産みます。

249尾
確認

■ナマズ

ナマズ目　ナマズ科

学名　*Silurus asotus*

川や湖の底にいることが多い魚です。体はぬるぬるしていて、ひげのような触覚（しょっかく）が顔についています。この触覚（しょっかく）は、餌（えさ）をさがすときに使う大事な「目」のような役割（やくわり）を果たしています。夜行性（やこうせい）で、夜になると活動（かつどう）を始め、小さな魚や水の中の虫を食べます。

2尾
確認

遊水地に住んでいる「重要種（じゅうようしゅ）」

魚の中には、数がとても少なくなって、特に守らないといけない「絶滅危惧種（ぜつめつきぐしゅ）」と呼ばれる魚がいます。住む場所が少なくなったり、水が汚れてしまったせいで、生きられなくなっている魚が増えています。
砂川遊水地では、そんな数が少なくなった魚たちが住んでいることがわかりました。今回の調査（ちょうさ）で見つかった大事な魚たちを少し紹介（しょうかい）します。

■ゲンゴロウブナ

コイ目　コイ科　　学名　*Carassius cuvieri*

もともと滋賀県（しがけん）の琵琶湖（びわこ）に住んでいた魚です。でも、人がほかの場所に放したことで、今では日本中の川や池、湖で見られるようになりました。春から夏の始め（4月～6月）になると、水草（みずくさ）や岸のそばの草に卵（たまご）を産みます。でも、小さい種類の「ゲンゴロウブナ」は、最近（さいきん）とても数が少なくなっています。今回の調査（ちょうさ）では、地図にある②の場所で見つかりました。

1尾 確認　重要種

■サクラマス（ヤマメ）

サケ目　サケ科　　学名　*Oncorhynchus masou masou*

サケの仲間で、サケにとても良く似ています。日本のきれいな川に住んでいて、銀色の美しい体をしています。大きくなると、体がピンク色や赤っぽくなって、桜の花のような色になるので「サクラマス」と呼ばれています。この魚は川で生まれ、成長すると海に出ていきます。そして、海で大きくなってから、また川に戻り、卵（たまご）を産みます。今回の調査（ちょうさ）では、地図にある①のパンケウタシナイ川の入り口で**4尾**のサクラマスが見つかりました。

4尾 確認　重要種

遊水地に住んでいる「魚以外の生き物たち」

遊水地には、いろいろ種類の魚が住んでいることがわかりましたが、魚のほかにも、「スジエビ」や「モクズガニ」といった生き物が住んでいることがわかりました。
「スジエビ」や「モクズガニ」は、日本全国の川や湖でよく見られます。いずれも夜行性（やこうせい）で昼間は石の下などにかくれていることが多いのですが、夜になると元気に動きまわりエサを探（さが）したりします。

スジエビ

体長はオス3.5センチ、メス5.0センチほどで、メスの方が大きい

モクズガニ

甲幅は7～8センチ、体重180gほどに成長する

遊水地に住んでいる「外来種（がいらいしゅ）」

外から来た魚を外来種（がいらいしゅ）と言います。もともとその場所にはいなかったけれど、ほかの国や場所からやってきた魚のことです。たとえば、川や池に昔から住んでいた魚とは違って、人が連れてきた魚です。「がいらいしゅ」は、元から住んでいた魚たちの食べ物を取ったり、住む場所を取ったりすることがあります。だから、「がいらいしゅ」が増えすぎると、ほかの魚たちが困ってしまいます。今回、遊水地で住んでいる魚を調（しら）べたところ、**6種類**の「がいらいしゅ」が見つかりました。

■カムルチー（ライギョ）

スズキ目　タイワンドジョウ科　　学名　*Channa argusu*

体が細長くて、大きいものだと1メートルくらいになります。背中は茶色や緑っぽい色で、お腹は白っぽいのが特徴（とくちょう）です。口がとても大きくて、下のあごが上のあごより前に出ているのが目立ちます。歯はとがっていて、噛（か）む力が強いので気をつけなければいけません。この魚は、川や池の静かな場所が好きで、水草（みずくさ）がたくさんあるところに住んでいます。小さな魚やカエル、虫を好んで食べます。

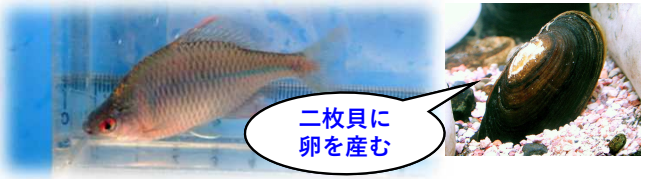
2尾 確認　外来種

■タイリクバラタナゴ

コイ目　コイ科　　学名　*Rhodeus ocellatus ocellatus*

体長が5～6センチくらいで、とても小さくてきれいな色をしているのが特徴的（とくちょうてき）な魚です。もともとは中国や朝鮮半島（今の韓国と北朝鮮の地域）から日本に来た魚で、日本では川や池、湖などの静かで穏（おだ）やかな水の近くに住んでいます。小さな虫や水の中の植物を食べていて、元気いっぱいに良く動き回る魚です。春から夏（3～9月）になると、二枚貝に卵（たまご）を産みます。小さくて見た目がきれいなことから、観賞魚（見るために飼う魚）としても人気があります。

15尾 確認　外来種



■コイ（野生型）

コイ目　コイ科　　学名　*Cyprinus carpio*

コイは昔から日本の池や川で見られる魚ですが、もともとは、約1500年前に中国から持ち込まれた「外来種（がいらいしゅ）」です。コイは何でも食べる魚なので、小さな魚や水生昆虫（すいせいこんちゅう）のエサを奪(うば）ってしまい、もともといた生き物が減ることがあります。

1尾 確認　外来種